

## 『あなたは、どこにいるのか』

創世記 3:7~9

神である主は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。「あなたは、どこにいるのか」(9節)  
序]

「キリストの救い」という聖書の中心的なメッセージを理解するためには今日はテキストは不可欠の章である。

本]

### I 罪とは何か

一言で言うと、それは自分が神のようになれると考えること。■事の起こりは、この考えを悪魔の誘惑に乗って、人が受け入れたこと。善悪の木の実がどれほどのものであったかわからないが、一つや二つ、取って食べたくらいで楽園から追放されるほどの罪かと考えてしまうかもしれない。①アダムとエバは空腹に耐えかねて食したのではない。②出来心で食したのでもない。

\*彼らは、「神のようになりたい」という不遜な思いで食べた。それが罪だった。

\*罪とは「自分には神など要らない。なぜならば、自分が神だから」という考えで押し通すこと。

### II 罪の結果

①自分を隠した。(7)隠すということは、相手に心の壁を作ること。人間歴史の初めから、最も身近な関係のはずの夫婦さえ心を開いて、裸のまま本音を出して話せない存在になっていた。

②神から身を隠した。(8)これが最も深刻だった。■この神との断絶状態を「魂の死」という。

③責任転嫁(11~13)アダムはエバのせいにし、エバは悪魔のせいにした。そして、人は究極的に神に責任を追及した。

\*善悪の知識の木を植えた神に責任があるのか?そうではない。神はロボットを作ったのではなく、自ら責任の取れる、自由意思を持った人間を造られた。

\*人は、意識的に神に逆らい、当然の結果を得た。(16~19)

III 罪の解決—以上のような絶望状態である人間には、どこにも救いはない。しかし、もし外側から救いの手が差し伸ばされたとしたら「福音」である。21節の「皮の衣」は十字架の象徴。人が出来ることは、せいぜい、「いちじくの葉」を探し取り換え引き換えすること。それは死ぬまで続けなければならない空しい作業。しかし、神は、動物の血を流して「皮の衣」を与えられた。旧約歴史は、小羊の血を流して罪を贖った。しかし、キリストは神の小羊となって十字架上で聖い血を流された。それを自らの罪の身代わりと信じる時、人は救われる。

結]

「あなたは、どこにいるのか」 神は彼らの居場所は百も承知だった。敢えて問われたのは、神が彼らの悔い改めを求めたから。これは愛の問いかけだった。本来は、神は人に問う必要がなかった。神は今も我らを捜しておられる。